

## 耐震診断結果一覧の見方

### 確認の手順

- ①欄に記載している耐震診断の方法を附表から探します。
- ②欄に記載している構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の値が、「1」で確認した附表の耐震診断の方法における構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価で該当する区分（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）を確認します。

構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の区分については次のとおり

- Ⅰ 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険が高い。
- Ⅱ 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険がある。
- Ⅲ 大規模の地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険が低い。

※ 震度6強から7に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示すもので、いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度5強程度の中規模地震に対しては損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはないものとされています。

### 要緊急安全確認大規模建築物の耐震診断結果

小学校、中学校、中等教育学校の前期課程もしくは特別支援学校

No.	建築物の名称	建築物の位置	建築物の主たる用途	耐震診断の方法の名称	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価の結果	耐震改修等の予定		備考
						内容	実施時期	
1	宇治市立〇〇中学校	宇治市△△	中学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	$I_s/I_{s0}=0.90$ 、 $C_{T11} \cdot S_D=0.50$	耐震改修	平成30年度着工予定	
2	宇治市立〇〇小学校	宇治市△△	小学校	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」（2001年版）	$I_s/I_{s0}=1.23$ 、 $C_{T11} \cdot S_D=0.61$			
3	・	・	・	・	・			

(附表)

耐震診断の方法	構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第2次診断法」及び「第3次診断法」（2001年版）	$I_s/I_{s0} < 0.5$ 又は $C_{T11} \cdot S_D < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s/I_{s0}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{T11} \cdot S_D$
一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄骨造建築物の耐震診断指針」（1996年版、2011年版）	$I_s < 0.3$ 又は $q < 0.5$	左右以外の場合	$0.6 \leq I_s$ かつ $1.0 \leq q$

### 耐震診断結果の一覧の整理の方針

- ②欄の構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価は、構造上の棟別や階別等により算出された評価のうち、最小値を記載しています。
- 一棟の建築物で複数の耐震診断方法を採用した場合は、採用した診断方法別に安全性の評価の最小値を記載しています。
- 特記がない限り、 $I_{s0}=0.6$ 、 $Z \cdot G \cdot U=1.0$  としています。
- ③欄の耐震化等の予定には、耐震化の方針が検討中の建築物や実施時期が未定であるものについては記載していません。